

「ブラジルは早急に根強い制度的人種差別を撤廃しなくてはならない」

2024/08/16

国連人権高等弁務官事務所

本日、人種差別に関する国連特別報告者である Ashwini K・P は、「ブラジルは根強い制度的人種差別を早急に解体しなければならない」と述べ、この問題に対処するための大胆かつ革新的な行動を呼びかけた。12日間のブラジル訪問後の[声明](#)で、同氏は「アフリカ系の人びと、先住民族、キロンボ、ロマ、その他の人種のおよび民族的グループに属する人びとが植民地主義や奴隷制のレガシーとして、多面的で密接に関連し合う制度的人種差別を広範囲にわたり受けている」と述べた。また、それらのコミュニティによる持続的で勇気ある権利擁護活動にも関わらず、多くの場合「先住民族やキロンボの土地の権利の侵害、根強い社会的・経済的・文化的・政治的排除、環境的人種差別、警察による残虐行為など」人種に基づくさまざまな暴力や排除をうけている。これらの状況に対し「人種差別の根本的原因や歴史的背景、さらには地理的不均衡を認め、それらを是正し、賠償も含めた正義の実現をめざす」ようブラジル政府に求めた。また、反人種差別への取り組みに対しさらに多くの資源を投入し、変革のペースを早めるようにも求めた。